

第4章 網走市の農業

伊藤良因

4.1. はじめに

入学してから少しずつ噂に聞いていたゼミ旅行であるが、実際に行ってみての感想としてはいろいろと思う部分があった、ということにとどめておこうかと思う。

さて、今回のゼミ誌の担当はゼミ旅行の主な行き先であった網走市の農業についてである。

この項では網走の農業の生産物とその収穫などの各種データを用いて紹介したいと思う。

4.2. 網走市の農業政策

網走市の農業は網走市農業振興計画に基づき農業の振興を図っている。この農業振興計画は基本目標として「次世代につなぐ持続可能な農業の実現」を掲げている。この目標実現のために様々な課題を設定している。

課題として、

- ・力強く安定した地域循環型農業の展開を目指す
- ・地産地消・食育を推進し市民の健康と食の安全確保を目指す
- ・網走市農業の可能性を発掘し農業を軸に他産業と連携しながら地域振興を目指す
- ・安心できる快適な生活環境の実現を目指す

ということを挙げ、農業従事者や消費者など関わる人々の共同のもとに政策決定を行っている。

4.3. 生産物

4.3.1 畑作生産

『第10期網走市農業振興計画』に基づいてん菜、麦類、馬鈴薯を基幹作物に設定している。主な生産物と生産額、作付面積は表のとおりである。

基幹作物に指定されている作物の生産量、生産額は他の生産物と比べて圧倒的な規模とな

表1 作物生産額		
	生産量(t)	生産額(千円)
麦類	21,100	2,518,041
豆類	362	100,727
馬鈴薯	116,411	3,089,945
てん菜	212,495	3,414,376
野菜	5,943	713,841
果実	54	63,664
わさび	1,178	131,986
その他	56,985	

出典:あばしりの農業

っている。

麦類に関しての内訳をみるとビール麦の作付面積が非常に大きい。この作付面積の広さから収穫できるビール麦が特産物である網走の地ビールの生産を支えているということがうかがえる。

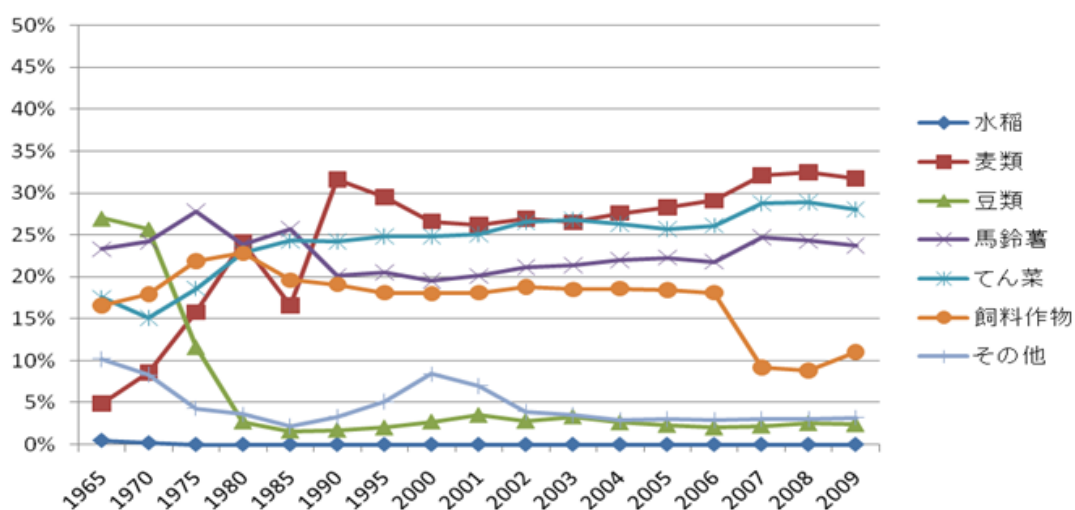
他にも、馬鈴薯やてん菜の作付面積もまた大きい値を示しており基幹作物としての存在感を示している。

さらに、農業生産物としての牧草の作付面積が広大に取られている。

酪農や肉牛を主体とした畜産を行う上で欠かせないものであるため、農業の点からも畜産振興を重視している姿がうかがえる。

表2 作付面積		
作物名		面積(ha)
麦類	ビール大麦	1,339
	春小麦	7
	秋小麦	1,644
	計	3,990
豆類	大豆	62
	小豆	209
	菜豆	25
	計	296
馬鈴薯		2,991
てん菜		3,529
野菜		331
果実		6
わさび		70
牧草		1,027
デントコーン		358
合計		12,598

グラフ 4-1 畑作物作付面積割合の推移



さらに作付面積の割合の推移を見ると、網走市農業振興計画にあるように主幹となる作物の作付面積は大きく上昇または高い値で横ばいとなっている。

また、1965年～1980年の麦類と豆類の作付面積の割合を見ると麦類は大きく上昇し、対して豆類は大きく下降している。ここから、網走市ではこの時期に主幹作物の転換がなされたことがうかがえる。

このほか、日本全体の主幹作物とも言える稲作についてであるが 1975 年以降作付面積の値は 0%を示しており、ほとんど行われていないという現状がある。

4.3.2 畜産

酪農、肉牛を主体とし、『第 10 期網走市農業振興計画』を基本として畜産振興を図っている。

表3 畜産物生産額								
	個体販売				その他			合計
	乳用牛	肉用牛	廃用牛	馬	生乳	畜肉	ブロイラー	
生産量	1143頭	950頭	433頭	1頭	18428t	16796t	25272t	
生産額(千円)	90,023	343,082	47,418	900	1,438,244	6,521,369	7,066,743	15,507,779

出典:あばしりの農業

個体販売の生産額やその他の項目を見ていくと肉用牛や畜肉の販売が盛んに行われている。あばしり和牛のブランド化などの販売促進への取り組みの成果であることがうかがえる。

表4 飼養頭羽数・戸数								
飼養頭羽数	乳用牛		肉用牛		豚	鶏	綿羊	馬
	育成牛	成牛	肉専用牛	乳用種	54,776	380	44	115
	1,502	2,024	2,839	385				
飼養戸数	29		38		2	1	5	19
一戸平均	121.6		84.8			380	8.8	6.1

出典:あばしりの農業

畜産は乳牛・肉牛を中心に展開しており生産量、生産額でも大きくほかの畜産物を大きく上回っており計画通りの畜産振興を進めていることが分かる。

4.3.3 農業従事者数

網走市の農業統計である『あばしりの農業』によると、現在網走市の農業従事者数は男性 615 人、女性 499 人の計 1,114 人である。以下の表は年齢別に表したものである。

表6 年齢別農業従事者数						
	16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～59歳	60歳～	計
男性	3	32	52	366	162	615
女性	0	7	23	318	151	499

出典:あばしりの農業

データの年齢区分が大まか過ぎることもあり正確なことは読み取れないが、おおよその表からは若年の農業人口が少ないということと高齢の従事者が多いということが読み取れ、昨今の農業の問題点とされている後継者不足が網走でも起こりつつあるということがわかる。

4.4. 生産物・名物品の紹介

●地ビール

網走市の主要作物である麦から生まれた地ビールである。その種類は「流氷ドラフト」「はまなすドラフト」「知床ドラフト」「じゃがドラフト」「ピルスナー」「ヴァイツェン」の 6 種類でそれぞれに地ビールとしての工夫を凝らしている。観光客にも人気が高いほか、全国販売も行っており好評を得ている。

図 4-1



出典:網走ビール館

●馬鈴薯

網走市の馬鈴薯の生産量は北海道 1 位である。品種により澱粉原料となるもの、カレーやシチューなどに使われる食用のもの、ポテトチップスなどに加工される加工食品用のもので、3 つに分かれる。網走では主に、澱粉原料用のコナフブキ・ナツフブキ・サクラフブキの 3 つの品種を生産している。

図 4-2



出典:Google 画像

●てん菜

網走市の基幹作物の一種であるてん菜は別名「ビート」と呼ばれ北海道では生産量が 4 位である。砂糖の原料であり、日本では北海道の「甜菜」、と呼ばれ沖縄の「サトウキビ糖」が生産されている。

網走では、雪融け前の 2 月下旬から 3 月中旬にかけて、ビニールハウスで種子を播き、5 c m ほどに苗を育ててから、畑に移植している。畑に直接種子を播く（直播）方法もあるが、北海道の春は遅いため、少しでも生育期間を延ばす為に多くはこの移植法で栽培している。

図 4-3



出典:Google 画像

●和牛

網走管内では食用牛の育成も盛んである。近年、北海道オホーツクあばしり和牛のブランド化もあり、和牛の頭数は増加傾向にある。市内の多くの焼肉店などで食べることが可能であるが中でも網走ビール館は地ビールとともに舌鼓を打つことができる。

図 4-4



出典:Google 画像

参照 HP

網走市農業統計 平成 22 年版「あばしりの農業」

<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/030shisei/020toukei/070nougoutoukei/files/abanou22.pdf>

JA オホーツク網走 HP

<http://ja-okhotskabashiri.or.jp/index.html>

網走市ホームページ

<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/index.html>